



Nestlé Good food, Good life

2025年3月13日

ネスレ日本株式会社

ネスレ日本・JR 貨物グループによる中距離帯での定期貨物鉄道輸送 取り組み開始から2年目を迎え、輸送量を約1.6倍に拡大

貨物鉄道とトラックを併用した中国・四国方面への新ルートの運用を3月31日(月)より開始

ネスレ日本株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役社長兼CEO:深谷 龍彦、以下「ネスレ日本」)は、日本貨物鉄道株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長兼社長執行役員:犬飼 新、以下「JR 貨物」)とそのグループ会社である全国通運株式会社、日本運輸倉庫株式会社(以下、JR 貨物とあわせて「JR 貨物グループ」)と連携し、食品・飲料業界初(※1)の中距離帯での定期貨物鉄道輸送として2024年2月より開始した「ネスカフェ ボトルコーヒー」の輸送について、新たに貨物鉄道とトラック輸送を併用した中国・四国方面への新ルートを構築し、2025年3月31日(月)より運用を開始します。これにより、1日あたりの輸送量は最大340トン(※2)となり、年間での輸送量は前年同期比で約1.6倍となります。

(※1)1社で200トン/日規模の輸送において、ネスレ日本、JR 貨物調べ (※2)需要に応じ200トンから340トンの間で変動

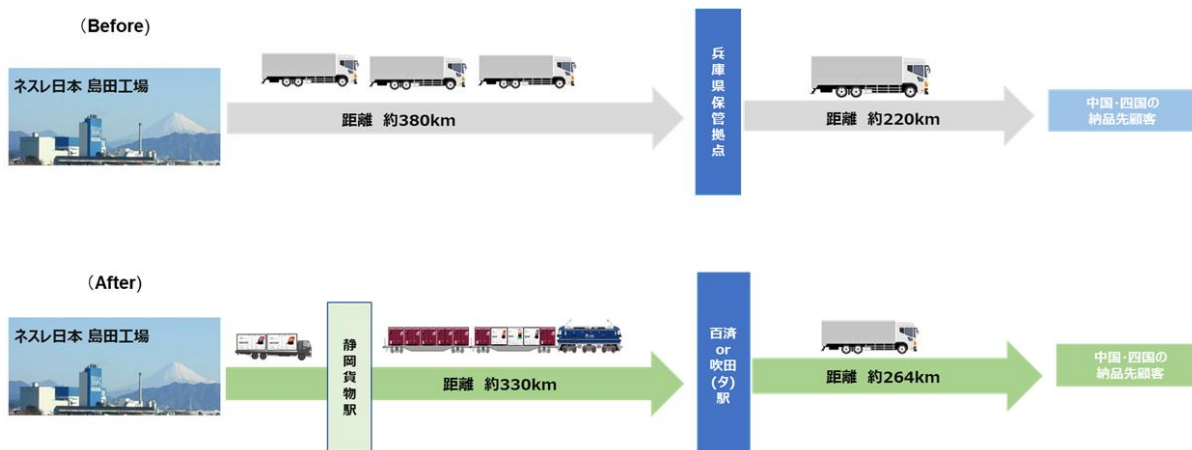


JR 貨物 百済貨物ターミナル駅(大阪府大阪市)に到着した貨物コンテナ

ネスレ日本は、環境への配慮をバリューチェーン全体で実践しています。特に物流分野では、二酸化炭素(CO₂)の排出量を削減するために、トラック輸送から貨物鉄道輸送や船舶輸送への切り替えを進める「モーダルシフト」を2009年から推進(※参考資料)しています。長距離輸送(※3)が中心だった貨物鉄道輸送において、より多くの貨物を運ぶ中距離輸送(※4)も行えるようJR 貨物グループと連携して新たな輸送網の構築に取り組み、2024年2月よりネスレ日本 島田工場(静岡県島田市)からJR 貨物 百済貨物ターミナル駅(大阪府大阪市)を経由した関西方面への「ネスカフェ ボトルコーヒー」の輸送を開始しました。

当取り組みから2年目を迎える2025年3月31日(月)より、ネスレ日本 島田工場(静岡県島田市)からJR 貨物 百済貨物ターミナル駅(大阪府大阪市)および吹田貨物ターミナル駅を経由して、中国・四国方面へ輸送する貨物鉄道とトラック輸送を併用した新ルートの運用を開始します。これにより、年間約7,000台分(※5)のトラック輸送の削減につながり、二酸化炭素(CO₂)排出量を約1,100トン削減できる見込みです。

今後も段階的に対象品目と地域の拡大に取り組み、トラックドライバーの負担軽減や、二酸化炭素(CO₂)排出量の削減に貢献していきます。(※3)走行距離500km以上 (※4)走行距離500km以下、200~350kmを中心帯に想定 (※5)10トントラックでの換算



参考資料

■ネスレ日本について

ネスレ日本は、スイスに本社を置く世界最大の総合食品飲料企業ネスレの日本法人です。現時点での国内での生産拠点は、霞ヶ浦工場(茨城県)、島田工場(静岡県)、姫路工場(兵庫県)の3か所です。

工場名	所在地	設立	主な製造製品
ネスレ日本 霞ヶ浦工場	茨城県稲敷市	1978年	コーヒー、菓子、栄養補助食品
ネスレ日本 島田工場	静岡県島田市	1973年	コーヒー
ネスレ日本 姫路工場	兵庫県姫路市	1965年	コーヒー、菓子

事業所一覧: <https://www.nestle.co.jp/aboutus/profile/group>

■「モーダルシフト」とは

輸送の“様式”(モード)を“転換する”(シフト)意味の2語を組み合わせた言葉で、トラックなどの車両輸送と比較して環境負荷が少なく、大量輸送が可能な貨物鉄道や船舶などに輸送を切り替えることを指します。二酸化炭素(CO₂)の排出量において、貨物鉄道輸送はトラック輸送の約11分の1、船舶輸送の約2分の1(※国土交通省ウェブサイトより)とされており、「モーダルシフト」の推進は環境負荷の低減が期待できます。

■これまでのネスレ日本の「持続可能な物流」への取り組み

年	取り組み
2009	・ JR貨物と連携し、貨物鉄道輸送を開始
2011	・ ネスレ日本、JR貨物、全国通運の3社により「神戸モーダルシフト推進協議会」を設立
2014	・ JR貨物などが幹事を務める「イオン鉄道輸送研究会」専用列車へ参画
2015	・ 「イオン鉄道輸送研究会」専用列車による静岡～福岡間での往復鉄道輸送を実現 ・ 川崎近海汽船、日本気象協会とともに天候を活用した海上輸送モーダルシフトを推進し、省エネルギーの実現や物流分野において将来懸念されるトラックドライバーなどの人手不足への対応を進めていくことに合意
2016	・ ネスレ日本 霞ヶ浦工場とネスレ日本 姫路工場間の社内物流において、往復鉄道輸送を開始
2018	・ JR貨物と連携し、土浦駅(茨城県土浦市)の貨物駅を“倉庫”として活用する「土浦モデル」を開始
2020	・ JR貨物など5社と連携し、米等の農作物運送用に空回送されていたコンテナを「ネスカフェ ボトルコーヒー」の輸送に活用する「産業を跨いだ新たな鉄道運送水平共同モデル」を構築
2021	・ トラックCO ₂ 排出削減のための代替燃料「リニューアブル・ディーゼル燃料」の採用に向けた実証実験を実施
2022	・ 顧客向けの製品配送に電気トラックを試験導入 ・ スイス本社と連携し、3工場にトラック待機時間の削減を行う輸送管理システムを導入
2023	・ 三井情報と連携し、配送状況の可視化やトラックの待機時間を把握できる新しい仕組みを導入
2024	・ ネスレ日本 島田工場(静岡県島田市)から JR貨物 百済貨物ターミナル駅(大阪府大阪市)を經由して関西方面へ「ネスカフェ ボトルコーヒー」の定期貨物鉄道輸送を開始

2024年2月21日(木)発行のプレスリリース: ネスレ日本、JR貨物グループと連携し中距離帯での定期貨物鉄道輸送を開始
https://www.nestle.co.jp/media/pressreleases/20240221_nestle

2023年共通価値の創造とサステナビリティ ネスレ日本の取り組み:

https://www.nestle.co.jp/sites/g/files/pydnoa331/files/2024-07/CSVreport_2023_jp.pdf